

群 教 セ	H01 - 01
	平 26. 254 集
	幼児教育

小学校入学への期待を高める幼児の育成

—小学校教諭と一緒に遊ぶ活動を通して—

特別研修員 高柳 恵美子

I 研究テーマ設定の理由

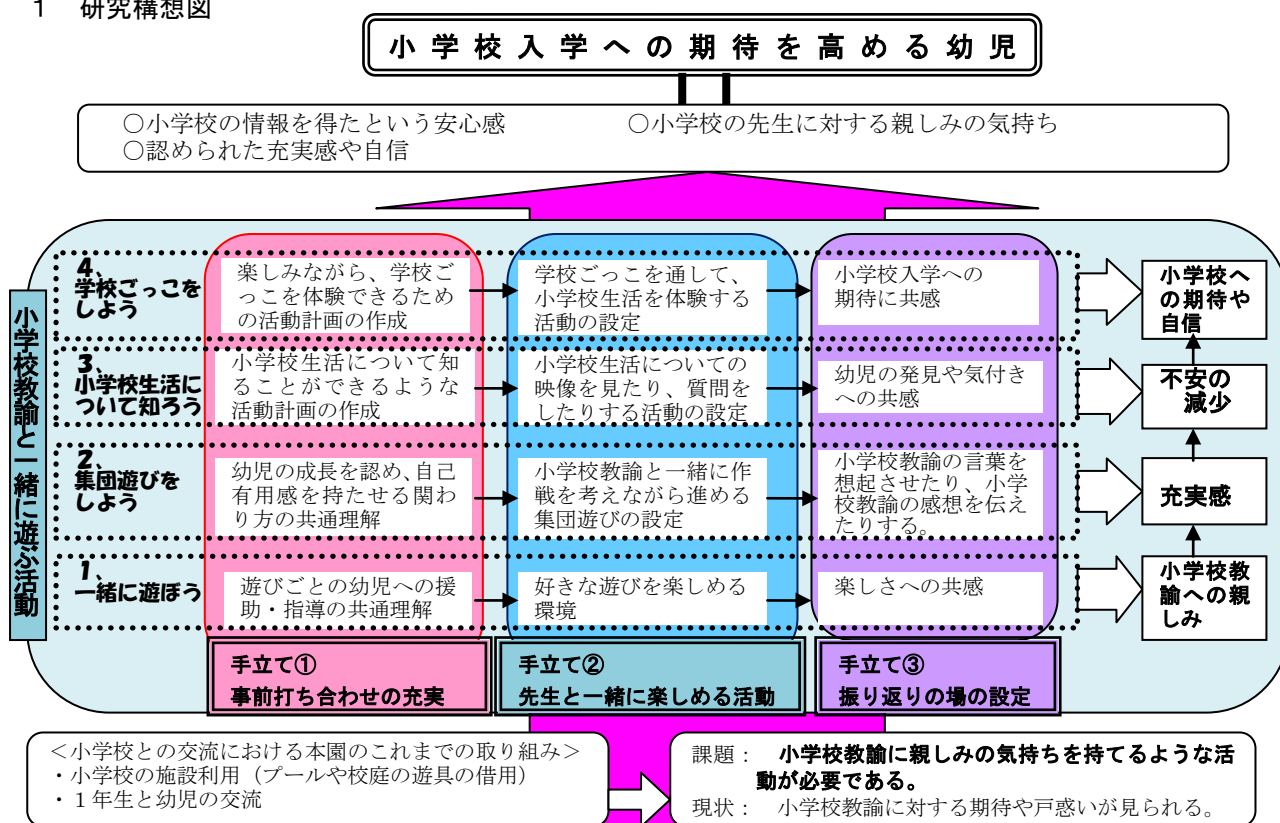
近年、小学校入学に際し、幼稚園と小学校との生活の変化が大きく、うまく対応できない児童が多いという問題が指摘されている。そのため、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のための連携が求められている。

本園では、例年、近隣の小学校の校庭やプールなどの施設の利用や授業参観、1年生と幼児の交流などを実施している。小学校を身近に感じることで、幼児は、就学への憧れや期待を高めている。しかし、実際に就学が間近に迫ると、「勉強は難しいのかな」「小学校にはどんな先生がいるのかな」などと、不安を言葉にする幼児が多くなっていく。また、本園修了生 40 名に対し、小学校入学に向けた不安や期待についてのアンケートを実施したところ、勉強や登下校、小学校教諭との関わりなどについて、期待しながらも不安が大きいくという結果となった。これらの実態から、戸惑いや不安を軽減させながら、幼児が小学校入学に更に期待を持てるようにするための手立てが必要であると考えた。

そこで本研究では、小学校教諭を園に招き幼児と一緒に遊ぶ活動を設定した。この活動を通して幼児は、一緒に遊んで楽しい経験をしたり、小学校の情報を得たりして、小学校教諭に対する親しみの気持ちや安心感を持つようになるであろう。また、頑張りを認められた充実感や自信を持ち、小学校入学への期待を高めていくであろうと考え、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

本研究では、「①事前打ち合わせの充実」「②小学校教諭と一緒に楽しめる活動の設定」「③振り返りの場の設定」の三つを手立てとし、幼児の発達の過程に応じながら充実した活動となるよう研究を進めた。

「①事前打ち合わせの充実」では、小学校教諭と直接話をする時間を設け、幼児の現在の成長の段階や園生活の様子、興味を持っていることなどを詳しく伝え、理解を得るようにした。また、幼児の小学校入学への期待を高めるために必要な環境や教師の援助の仕方について話し合い、共通理解を図った。「②小学校教諭と一緒に楽しめる活動の設定」では、幼児の発達や小学校入学への意識の高まりなどを捉え、その時期にふさわしい経験ができること、幼児の興味や関心を基にすること、楽しみながら小学校教諭と一緒に活動できることを考慮し、計画的に活動内容を決定した。また、幼児が自分の入学予定の小学校教諭との活動を経験し、各校の情報を得られるようにすべての小学校（3校）の教諭との活動を計画した。「③振り返りの場の設定」では、小学校教諭と一緒に遊んだ活動が、幼稚園生活に活かされるように工夫したり、更に小学校入学への期待が高まるように楽しかったことへの共感をしたりした。

本研究では、初めて小学校教諭と一緒に遊ぶ経験となる1回目（6月）より、徐々に小学校入学への意識を持つようになる3学期まで、幼児の小学校へ向ける思いに寄り添いながら、活動の内容を工夫、発展させていくようにし、計4回の実践を行った。

ここでは、1回目の活動（実践1）と3回目の活動（実践2）を提示する。

(1) 実践1「小学校の先生と一緒に遊ぼう1」（年長児・6月）

手立て①事前打ち合わせの充実・・・保育に参加してもらうための援助・指導の共通理解 (幼児に優しく接してもらう。頑張りを認めてもらう。)
手立て②先生と一緒に楽しめる活動の設定・・・幼児の普通の遊びに加わってもらい、一緒に遊びを楽しむ活動の設定
手立て③振り返りの場の設定・・・楽しかったことへの共感

(2) 実践2「小学校の先生と一緒に遊ぼう3 ～小学校生活について知ろう～」（年長児・11月）

手立て①事前打ち合わせの充実・・・活動計画（内容、教師の援助）の作成
手立て②先生と一緒に楽しめる活動の設定・・・小学校生活についての映像を見せてもらったり、質問に答えてもらったりして、小学校生活について知る活動の設定
手立て③振り返りの場の設定・・・小学校についての発見や気づきへの共感

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 事前打ち合わせを充実させ、幼稚園教育や幼児の発達を理解した上で協力を得ることができたので、小学校教諭の得意分野を活かしながら幼児の実態に合った活動とすることができた。
- 小学校教諭と一緒に遊ぶ活動を通して、小学校教諭に親しみの気持ちを持たせたことや小学校の情報を得ることができたことにより、幼児の小学校入学への期待を高めることができた。
- 幼児の発達の過程や小学校入学に向ける意識の高まりなどを考慮して、段階を追いながら活動を行ったことで、徐々に小学校入学への期待を高めていく幼児の姿を捉えることができた。

2 課題

- 幼稚園教育への理解と協力を得るための事前打ち合わせの充実が重要であるが、小学校教諭との時間調整が難しい。研究の成果を次年度につなげ、継続した活動を行えるようにすることが必要である。

3 提言

- 小学校教諭と一緒に遊ぶ活動は幼児の小学校入学への期待を高めることに有効である。幼稚園と小学校との教師同士の連携を図りながら、年間指導計画に位置付けて実践していくことが大切である。

<保育実践>

実践 1

1 活動名 「小学校の先生と一緒に遊ぼう 1」（年長児・6月）

2 本活動について

年長に進級して2カ月が経ち、自分の力を発揮しながら生活を進めていこうとする気持ちが出てきており、自分たちの生活の場である幼稚園で、思いきり遊びを楽しんでいる。そして、自分なりの目的に向かって「〇〇ができるようになりたい」という気持ちを持ちながら遊びに取り組み、できるようになる達成感や満足感を味わう姿が多く見られるようになってきた。小学校入学に向けた思いはまだ漠然としている。

そこで、いつものように幼児が遊びを進めている中に小学校教諭に加わってもらって活動計画する。一緒に遊び、褒めたり認めたりしてもらって経験を通して、小学校の先生と一緒に遊んで楽しかったという思いや親しみの気持ちを持つことができると考える。

3 保育の実際

(1)手立て① 事前打ち合わせの充実

小学校教諭に直接会って話をする機会を設け、小学校教諭に保育に参加してもらうことの意義を十分に理解してもらえるよう説明をした。また、幼児が普段行っている遊びと一緒に参加してもらう時の具体的な関わり方について、日案をもとに、予想される遊びごとに詳しく説明した。小学校教諭は、「事前に、日案を参考にしながら当日の保育について話し合ったので、遊びごとに自分がどう幼児に接すれば良いか分かって良かった」と話し、協力を得ることができた。

<遊びごとの日案の一部>

●物的な環境 ・予想される幼児の姿 ○教師の関わり（ゴシックは小学校教諭に関わるもの）

<鉄棒>

- 幼児がいろいろな鉄棒遊びを試してみようとするように、鉄棒の遊び方表示を出しておく。また、幼児が自分で好きな高さを選んで取り組めるよう、移動式鉄棒も設定しておく。
- ・自分なりの目的を持って、鉄棒に挑戦して遊ぶだろう。
- 幼児の頑張りを認めたり、褒めたりし、自信を持たせていく。
- 一人一人の発達を捉え、適切な補助をする。
- 得意な鉄棒遊びを小学校の先生に見てもらい、認めてもらうことで喜びを感じることができるような言葉かけをしてもらう。
- 小学校の先生に幼児の頑張りをたくさん褒めてもらうように伝える。

<鬼遊び（泥警）>

- 自分たちで遊びを決め、必要な用具を出して遊び始められるよう、遊びに使うサッカーゴール（牢屋に見立てて使用する）を出し易いところに置いておく。
- ・A児たちが10人くらいの友達を誘って、昨日の遊びの続きをするだろう。
- 小学校の先生にも一緒に参加してもらい、逃げる速さが速いなど、「学校の先生ってすごい」と憧れる気持ちを幼児が持てるように関わってもらう。
- ルールの中でトラブルになった時には遊びを中断させ、十分に話し合いができるように指導する。

(2)手立て② 先生と一緒に楽しめる活動の設定

- 本時のねらい
 - ・ 小学校の先生と一緒に遊び、楽しむようになる。
 - ・ 小学校の先生に自分の得意なことを見せ、認めてもらうことの充実感を味わうようになる。

○ 全体の遊びの様子

- ・ 鉄棒では、小学校教諭を誘い、「先生、前回りをやるから見てね」と張り切って伝え、自分の得意な技を見せ、「本当だ！すごいね。1年生みたいだね」と褒めてもらおうと、喜んだり、更に意欲的に繰り返して挑戦しようとしたりする幼児がほとんどだった（図1）。
- ・ 鬼遊びで小学校教諭が鬼になると、走りが速く、スタートから5分程で、全員が捕まってしまったことに「小学校の先生ってすごいね」と、驚く姿が見られた（図2）。



図1 鉄棒の様子

- ・ シャボン玉遊びの場面では、「先生、ここに並ぶんだよ」「大きな輪にシャボン液をつけて、そうっと持ち上げるとできるよ」と、シャボン玉の作り方を積極的に小学校教諭に教える幼児の姿が見られた。

○ 小学校教諭への親しみの気持ちを持っていると捉えた幼児の姿

- ・ A児は、友達が小学校教諭と楽しそうに遊んでいるのを横目に、一生懸命に泥団子を作っていた。「小学校の先生と遊ばないの？」と声を掛けると、「ピカピカの泥団子を作って、小学校の先生に見せるんだよ」と答え、根気良く泥団子を作る姿が見られた。
- ・ B児は、普段は鉄棒への取り組みに消極的だが、当日は、小学校の先生に頑張る姿を見せようと自分から取り組んだ。勢いに任せて回ると、前回りを成功させた。「初めてできたの？すごいね」と、小学校教諭に褒めてもらい、できた喜びを味わい、その後も繰り返して取り組む姿が見られた。
- ・ 『さようなら』の場面で、一人一人が小学校教諭と直接関わることができるよう、握手やハイタッチをする場面を設定した。小学校教諭が、一人一人に触れながら、「またね」と声をかけてくれたため、教師が促さなくても、「先生、ありがとうございました」「また来てね」「一緒に遊べてすごく楽しかったよ」などと、自分の気持ちを伝えている姿が見られた（図3）。



図2 鬼遊びの様子



図3 さようならの様子

(3)手立て③ 振り返りの場の設定

活動後、小学校教諭と一緒に遊んで楽しかったという思いに共感すると、「お礼にプレゼントを作りたい」「小学校のプールに行く時にまた会いたいな」「また幼稚園に遊びに来てほしいな」という会話が多く聞かれた。これは、小学校教諭に対する親しみの気持ちを持つ姿と捉えた。「小学校教諭にお礼をしたい」という幼児の思いを受け止め、プレゼント作りを行った。また、例年行われている小学校のプールで遊ぶ時間に、小学校教諭と再会できるように配慮した。

数日後の小学校のプールで遊ぶ時間に小学校教諭と再会すると、「本当に来てくれた」「やったあ会えたよ」と歓声をあげながら先生の傍に駆け寄った。「この間はありがとうございました」「また、幼稚園にきてね」「会えて嬉しいよ」などと、気持ちを伝える姿が見られた。

4 考察

- 自分たちの生活の場に小学校教諭が来園し一緒に遊んでくれることで、緊張感がなく、親しみを持って教諭と関わる姿が見られ、効果的だった。
- 積極的に行動する幼児は、小学校教諭に思いを進んで伝えて関わっていたが、A児のように、遠くから見ている幼児もいた。「小学校の先生に見せたいから泥団子を完成させたい」というA児の思いから、直接関わらなくても、気持ちは小学校教諭に向いていることを捉えることができた。しかし、直接関われなかった幼児がいたことから、全員の幼児が関われるようにするには、どのような活動を計画すれば良いか今後の課題となった。

実践 2

1 活動名 「小学校の先生と一緒に遊ぼう 3 ～小学校生活について知ろう～」 (年長児・11月)

2 本活動について

「小学校の先生と一緒に遊ぼう 1・2」の活動を経験し、小学校教諭に対する親しみの気持ちを持つようになった幼児の姿が多く見られ、就学時健康診断では、「また、〇〇先生に会えるね」と楽しみにする姿が見られた。小学校入学に対する幼児の思いも少しずつ強くなり始め、「〇〇先生がいるから楽しみだな」「家の人にランドセルを買ってもらいたいな」「学校で勉強を頑張りたいな」「でも、道路を歩くのが心配だな」「お友達がたくさんできるか心配だな」など、幼児の会話の中に期待や不安の気持ちが入り混じる様子が見られるようになった。そこで、「小学校の先生と一緒に遊ぼう 3」では、小学校教諭に小学校生活について教えてもらうことを依頼し、幼児が小学校生活について知ること、不安を解消させ、入学への期待を高めることをねらいとし、活動を計画した。

3 保育の実際

(1)手立て① 事前打ち合わせの充実

小学校教諭に活動 1・2 回目の成果を伝えたり、今回のねらいについて説明したりし、理解や協力を得られるようにした。幼児が小学校生活について知ったり、学校の楽しさが伝わったりすることができるような活動についてどのようなことができるか小学校教諭と共に考えた。小学校教諭が保育の中心となり、幼児に体を動かすことの楽しさを教えたり、1年生の生活の流れについて知らせたり、幼児の質問に分かりやすく答えたりすることを活動の流れとし、次のように計画をした。

・ 幼児の活動	環境の構成の視点 (●物的な環境 ○教師の関わり) (ゴシックは小学校教諭に関わること)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の先生の動きを見ながら「元気っ子体操」をする。 ・ 小学校の先生が縄跳びを跳ぶ姿を見て、いろいろな跳び方ができると驚いたり、できるようになりたいという意欲を持ったりする。 ・ 一年生の生活の様子を映像で見て、小学校生活を知る。 ・ 小学校の先生に質問をする。 ・ 小学校の先生に質問に答えてもらい、小学校生活について安心感や期待を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体操ができるように広がるよう援助する。 ○ 「元気っ子体操」は、「小学校の運動会で行った体操で、園児のみんなにも教えてあげるよ」と話してもらい、幼児が「自分が少し大きくなった気分」を味わいながら取り組めるようにしてもらう。 ○ 「小学校では、縄跳びもたくさんするよ」と、幼児に向けて話してもらい、幼児の前でいろいろな縄跳びの跳び方を披露してもらう。 ● 遊戯室で映像が見られるよう、用具を準備し、場を設定しておく。 ○ 一年生の一日の様子を映像で見ながら説明してもらう。 ○ 幼児の質問に小学校の先生に具体的に答えてもらう。 ○ 「小学校は楽しいよ」「みんなが小学校に来ることを全部の先生、お兄さん、お姉さんたちが楽しみに待っているよ」と、幼児に声をかけてもらう。

(2)手立て② 先生と一緒に楽しめる活動の設定

○ 本時のねらい

- ・ 小学校の先生への親しみの気持ちを持つようになる。
- ・ 自分の思いや考えを言葉で先生に伝えようとするようになる。
- ・ 小学校生活について知ろうとする。
- ・ 小学校入学に対する興味や期待を高めるようになる。

○ 全体の遊びの様子

- ・ 小学校で行っている体操を教えてもらおうと、小学校教諭の動きを見ながら真剣に体操する姿が見られた。小学校教諭は、難しい動きになると自分の体の向きを変えながら体操し、幼児に見易いよう配慮していた。「少し難しいけど面白いね」と友達同士で話しながら、自分が少し成長した気分を味わっている姿が見られた(図4)。
- ・ 縄跳びで、いろいろな跳び方を見せてもらい「難しい技が跳べてすごいな」と驚き、自分でも挑戦しようとする幼児の姿が多く見られた。
- ・ 小学校生活の一日の流れについて、映像を見せながら説明をしてくれた(図5)。「学校に来たら、宿題を綺麗にカゴに出すんだよ。この綺麗にというところが難しいけど、みんなはできるかな?」と、分かりやすい言葉を使って話していた。幼児は「できるよ」「簡単だよ」と嬉しそうに答えた。

また、小学生が作った図工作品を見せてもらい、幼児は「ぼくも作りたいなあ」「早く学校に行きたいなあ」と話し、入学を楽しみにする姿が見られた。

○ 小学校生活について知ったことで、不安を解消し、期待を持つようになったと捉えた幼児の姿

- ・ C児は、普段から消極的な場面が多く見られているが、質問の場面で自分から手を挙げて質問した。「友達とけんかをしてしまったら、どうしたらいいですか?」というC児の質問に、「相手の友達と話して解決できれば一番いいけれど、もし、仲直りできない時には、学校の先生に話すと手伝ってくれるよ」と回答してくれた。「幼稚園の先生と同じだね」と幼児の思いに共感する言葉をかけると、にっこり笑ってうなずいた。
- ・ 1回目の活動で、小学校教諭と直接関われなかったA児は、体操や縄跳び、小学校生活についての話などに、積極的に参加する姿が見られ、特に縄跳びでは、自分から小学校教諭の近くへ行き、頑張って跳ぶ姿を見せようと張り切っていた。

(3)手立て③ 振り返りの場の設定

「学校は勉強ばかりではなくて、歌や工作もするんだね」「困った時は、先生に言えば大丈夫なんだね」と言う幼児に、「学校って楽しそうだね」「幼稚園と同じところもたくさんあるね」と答え、小学校生活について知って安心した幼児の気持ちに共感した。「早く小学校に行きたいなあ」「また先生に会いたいなあ」などと話す幼児の姿が多く見られた。

後日、幼児がお礼に作ったプレゼントを直接小学校教諭に渡す場を設定すると、再会できた喜びを味わい、感謝の気持ちを伝えながら渡す姿が見られた。小学校教諭は、「園児が入学前にどのような生活をしているのか知ることができる良い機会となった」と話してくれた。

4 考察

- 1・2回目の活動が基となり、3回目の活動では、幼児が自分から積極的に小学校教諭に関わろうとする姿が見られ、幼児の発達を捉えた活動の積み重ねが効果的だったと考える。
- 小学校教諭が保育の中心となって進める活動により、幼児は少し成長した気分を味わい、楽しみながら参加できたと思われる。
- 幼児が小学校生活について知りたいこと、不安に思っていることを直接小学校教諭に質問する場面を設けた。幼児の質問に丁寧に分かり易く答えてくれたことで、幼児の不安が期待へと変わったことを幼児の姿から捉えることができた。このような活動は、幼児の入学に対する不安を解消させ、期待を高めるために有効であったと考える。



図4 体操の様子



図5 小学校生活の説明の様子